

〈夕焼け〉

雨の心配がなかったので、夕方6時頃畑に行ってみた。明るいうちに簡単な夕飯を済ませ、ゆっくりとコーヒーを飲む。目を閉じてぼんやりしているうちに少しずつ西の空が色づき始めてきた。辺りは少しずつ色を失っていき、黄色いヘメロカリスだけがかろうじてその色を留めている。1分、2分と砂時計の砂が落ちるように、わずかな間に茜色の雲がどんどん濃くなりひたひたと闇が忍び寄ってくる。木も草も花も全てシルエットとなり、「誰そ彼」（黄昏）時となる。こんなにゆっくりと夕焼け空を見たのは本当に久しぶりだ。“夕焼けが見られたら明日は晴れ”。自分だけ見たわけではないのに、おみくじで大吉を引いたようで幸せ気分になる。

明日も

“きっといいことありそうだな”

